# 大径材利用戦略

木材産業振興課

## 戦略策定の趣旨

・産業振興計画に掲げる、「山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地」の実現につなげるためには、森林資源の成熟に伴い増加する大径材の有効活用が重要

・現在はバイオマス以外の用途が限られる大径材の利用を拡大するため、将来的な加工施設整備や製品開発、販売促進などの方向性を示す「大径材利用戦略」を策定

## 各調査結果

**（１）森林資源量調査**(森林クラウド等)

○スギ大径材(30cm以上)が著しく増加

**（２）素材生産調査**(４５事業者)

○大径材が増加すると労働生産性が悪化

**（３）原木市場調査**（３事業者）

○スギ平均単価は30cm以上から下落

**大径材の製材向け流通量予測**
**(原木生産量85万㎥(産振目標値)の場合)**（㎥）

| | 現状(R5) | 10年後 | 20年後 | 30年後 |
|---|---|---|---|---|
| スギ | 2.8万 | 9.5万 | 12.0万 | 14.4万 |
| | | +6.7万㎥ | +2.5万㎥ | +2.4万㎥ |
| ヒノキ | 1.2万 | 1.7万 | 2.5万 | 3.3万 |
| | | +0.5万㎥ | +0.8万㎥ | +0.8万㎥ |

**（４）製材工場調査**
（26社：原木消費量1,000㎥/年以上）

○大径材を効率的に加工可能な工場
30cm～36cmまでが４社
36cm以上が１社

**（５）マーケット調査**（県内外26事業者）

○安定供給・価格・品質が課題
・大径材製品(構造材)
製品市場　強度や反りに不安感
プレカット等　エビデンスがあれば活用
・ツーバイフォー材等
国産材にシフトする動き

### 課題１　素材生産体制

１）現場条件を考慮した作業システムの見直し等が必要

２）素材生産の高難易度化に伴う伐採技術向上と労働安全対策が必要

### 戦略１　大径材の効率的な生産・輸送体制を強化する

１）合理的な作業システムの導入や路網整備

２）担い手の更なる技術力の向上と労働安全対策の強化

### 課題２　生産体制

１）増加する大径材を加工するための製材加工能力が不足

２）大径材製品の品質確保等が必要

３）製品の安定生産・供給に必要な原木供給体制の構築が必要

### 戦略２　県内製材工場の大径材加工能力を引き上げる

１）設備投資の促進

２）製材や乾燥の技術力の向上

３）原木安定供給に向けた川上から川中の連携強化

### 課題３　製品

１）大径材製品は、品質への根強い不安感(強度や反り)がある

２）構造材など既存製品の価格競争が厳しい

### 戦略３　大径材を原料として生産される製品の付加価値を高め、アイテムを増やす

１）品質に関するデータ整備及び普及推進

２）新たな製品づくりと付加価値の創出

### 課題４　販売体制

１）外材需要の置き換えにはまとまった量の供給が必要

２）マーケットのニーズに合わせた製品供給が必要

### 戦略４　大径材を原料とした製品の販売を強化する

１）オール高知・事業者連携による販売の推進

２）製材工場における販売戦略の策定等